

平成30年第4回定例会

特別委員会報告書

文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会

大分県議会

目 次

【はじめに】	1
【調査の概要】	
I 大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策について	2
1 スポーツイベントの誘致等を通じた市町村・関係団体 民間事業者等と連携した誘客対策について	2
2 留学生を活用したインバウンド対策について	2
II 大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信について	3
1 市町村・民間事業者等と一体となった効果的な 情報発信について	3
III 文化・スポーツを活用した地域の振興について	3
1 カルチャー・スポーツツーリズム（スポーツ合宿等）を 通じた地域の活性化について	3
2 持続可能な地域展開を見据えた文化推進体制整備や 人材育成の在り方について	4
【提 言】	6
【終わりに】	8
【委員会の活動状況】	10

【はじめに】

文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会（以下「本委員会」という。）は、さきで開催された第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭、今後開催されるラグビーワールドカップ2019の大分開催や2019女子ハンドボール世界選手権大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ誘致等を契機として、文化・スポーツを活用した地域振興策について調査・研究し、知事に対して政策提言等を行うことを目的とし、平成29年9月15日に設置され、調査期限は平成31年3月31日までである。

本委員会の付託事件は、①大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策について、②大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信について、③文化・スポーツを活用した地域の振興について、の3点であり、本委員会では、各付託事件にテーマを設け、以下の調査・研究を行った。

1 大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策について

大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策については、市町村等関係機関、民間事業者等関係団体などとの連携はどうあるべきかという観点から調査した。

また、人口あたりの留学生数が多い本県の優位性を生かし、県内在住の留学生を活用したインバウンド（訪日外国人旅行者）対策について調査した。

2 大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信について

大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信については、市町村・民間事業者等と一体となった効果的な情報発信の手法について調査した。

3 文化・スポーツを活用した地域の振興について

文化・スポーツを活用した地域の振興については、スポーツ等のイベントや合宿を観光と結びつけて地域活性化等を図っていくスポーツツーリズムやカルチャーツーリズムの在り方について調査した。

また、文化・スポーツイベントを一過性のものでなく、レガシーとして継続するために必要な、取組の核となる人材育成の在り方について調査した。

以上の3点の付託事件については、企画振興部、国民文化祭・障害者芸術文化祭局等関係する執行部からの説明、報告を受けるとともに、県内、県外で先進的な取組を行っている団体等を調査した。

以下、本委員会の付託事件の調査及びその結果の概要について報告、提言を行うものである。

【調査の概要】

I 大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策について

1 スポーツイベントの誘致等を通じた市町村・関係団体・民間事業者等と連携した誘客対策について

- ・ 九重町では、標高1,000メートルの高地、夏でも平均20度という冷涼な気候、練習後の疲労回復に欠かせない数多くの温泉施設などの好環境を生かして、スポーツ合宿の取組を推進している（平成29年の夏の受入れ実績、延べ5,672人、83団体）。

同町は、千町無田マラソンコースなどを整備しているが、例えば、千町無田マラソンコースは、農繁期や複数のチームが合宿に入った時などは、別のコースに分散させる必要があり、代替コースの整備を進めることが喫緊の課題となっている。

こうした中、選手が安心して走れるように、県は、県道別府一の宮線（やまなみハイウェイ）の路肩拡幅を進め、平成31年度末に片側の拡幅を完成させる予定であるが、当地でスポーツ合宿を行う実業団からは、両側の拡幅を望む声が挙がっている。

また、飯田地域には、飯田高原診療所が1施設あるのみであり、選手のケガなどに対する医療ニーズに十分な対応ができておらず、高校生のラグビー合宿の関係者からは、医師の配置などさらなる医療体制の充実について要望が出ている。

なお、長野県上田市の菅平高原でのスポーツ合宿の取組では、菅平高原の診療所に季節診療として大学病院から医師の派遣を受けたり、ラグビー合宿時の負傷事例に対してドクターヘリ（長野県内において2台配備）の出動態勢を整備するなどの対策がとられていた。

2 留学生を活用したインバウンド対策について

- ・ 別府アルゲリッチ音楽祭は、世界的な演奏家マルタ・アルゲリッチ氏が総監督を務め、①子どもたちが素晴らしい音楽に触れることのできる場を、また、音楽を志す若者たちが学べる場を提供することで、人を育てていくこと、②アジアの音楽家とアルゲリッチの出会いの場をつくり、クラシック音楽を通してアジアや世界の人々との出会いの場を創出すること、③地域の人たちとともに創り、世界へ向けて個性溢れる音楽文化を発信することを目的に開催され、本年で20回を数えている。毎年、国内外から数多くの来場者を迎えている。

当該音楽祭では、立命館アジア太平洋大学（APU）の留学生などに、

通訳ボランティアとして協力してもらい、来県した外国人客から高い評価を得ていた。

- ・ 訪日外国人旅行客は、インターネットを利用して旅先の情報を収集することが多いことから、安心して来県してもらうために、留学生を活用して、空港から本県までのアクセス方法や、入浴・トイレの利用方法など外国人が戸惑うと思われる事柄を動画や外国語で説明するホームページを作成したり、外国語による応答文例を予め作成することなどにより集客に繋げている事例があった。

Ⅱ 大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信について

1 市町村・民間事業者等と一体となった効果的な情報発信について

- ・ 国や各都道府県などが、趣向を凝らしながら、インバウンド対策として地域のPR・情報発信を国外に向けて行っている。本県においても、ラグビーワールドカップ2019の本県開催などを控え、アジア地域のみならず、欧米や大洋州からのインバウンド増加に向けて、本県のもつ魅力のPR・情報発信に力を入れている。

せとうち観光推進機構（広島県、他6県）においては、インバウンド対象国ごとの嗜好をとらえたPRを実施し、欧米からのインバウンドが増加するなど成果を挙げている。

- ・ インバウンド推進協議会OITAは、ラグビーワールドカップ2019の大分開催により、訪日外国人旅行客の増加が見込まれる中、インバウンドに対する県民の意識向上や受入れ体制整備に必要な情報・課題の共有を図るために設立された組織（観光事業者などの法人会員だけでなく公務員や大学生といった個人会員で構成）である。講演や事例発表などの定例会の開催、各地域の課題を洗い出し、行政や関係機関に対して提言を行うといった取組を進めている。また、行政が民間事業者等を対象に設けている各種の支援制度の情報など、インバウンドに関する有益情報が、対象とされている各事業者まで届いていないという状況があることから、会員制交流サイト（SNS）などを利用して、会員（事業者間）で情報の共有化を図る独自の取組を進めている。

Ⅲ 文化・スポーツを活用した地域の振興について

1 カルチャー・スポーツツーリズム（スポーツ合宿等）を通じた地域の活性化について

- ・ 九重町は、県の振興局や九重町観光協会と連携し、スポーツの種類ごとに利用可能な施設、周辺の宿泊施設、アクセスなどスポーツ合宿を行う上で参考となる情報をまとめたハンドブックやホームページを作成し、合宿誘致を推進している。その結果、前述のとおり、かなりの成果を挙げている。
- ・ 県は、競技種目ごとの利用可能施設、市町村ごとの宿泊施設、市町村の助成金制度などを紹介するスポーツ合宿に関するホームページを作成し、情報提供を行っているが、県独自の助成制度は設けていない。
長野県においては、行政、関係団体、報道機関等からなる組織（スポーツコミッション）を設置し、行政と関係団体等で、課題や情報を共有するなど、一体となってスポーツ合宿誘致を推進していた。
- ・ 長野県上田市は、菅平高原においてスポーツ合宿の取組を推進しているが、閑散期にスポーツフィジカルセラピーとしてスポーツ合宿で培ったノウハウを生かしたヘルスツーリズムを実施するなど、1年を通して地域の活性化に資する取組を行っていた。

2 持続可能な地域展開を見据えた文化推進体制整備や人材育成の在り方について

- ・ アルゲリッチ芸術振興財団は、メインとなる別府アルゲリッチ音楽祭において、若手音楽家の育成や芸術文化の情報発信を行うとともに、子どもによる子どものためのコンサートなどのメニューを取り入れ、将来、音楽家を目指す子どもたちの育成や意識醸成に繋げている。また、日本を代表する一流の音楽家が、子どもたちの「心を育む」ことを目的に音楽のみならず自身の経験などを語りかける教育プログラム（ピノキオコンサート）を学校などで行ったり、県下全市町村に情報拠点（シュヴァリエ）を設置し、各地域の人々とともにコンサート等の開催を通じて地域の活性化や芸術文化の振興、意識醸成を行っている。
- ・ 九重町は、スポーツ合宿で来町した九州実業団陸上競技連盟関係者の協力の下、地元住民に対するスポーツや健康づくりの指導の場を設け、世代を問わずスポーツに関心を抱いたり、これを機に始めるといった教育・啓発、地域における人材育成に生かしていた。

- ・ 国東市は、隣接する自治体と共同で、平成24年度から3年間国東半島芸術祭を開催した。当該芸術祭では、様々な芸術作品が展示され、芸術家・関係者の交流のみならず、県内外から多くの観光客が来場し、国東半島の持つ魅力を発信するとともに、地域の住民との交流を通じて地域の活性化や芸術文化の振興に繋がった。そして、これを一過性のものとはせず、文化芸術によるまちづくりのヒントと可能性を見出すとともに、制作された作品や場所を今後も活用したいという地域住民の声から、平成27年度から「くにさきアートフェスタ」を開催している。くにさきアートフェスタは、各地域の住民がリーダーとなり、行政に頼らず主体的に芸術文化の情報発信や交流人口増加などに取り組んでいる。
- ・ セイジ・オザワ・松本フェスティバルは、指揮者の小澤征爾氏が創立し、恩師である斎藤秀雄氏の名を冠して平成4年から、毎夏、長野県松本市で開催されてきた音楽祭「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」を、平成27年に「セイジ・オザワ 松本フェスティバル (OMF)」と改称して実施している音楽プログラムである。小澤征爾氏のもと、世界中から優れた音楽家が結集し、サイトウ・キネン・オーケストラを中心にオペラやコンサートなど多彩な演目が披露されている。また、若い音楽家の教育だけでなく、小中学生への音楽教育についても力を入れている。

【提 言】

I 大規模文化・スポーツイベントを活用した誘客対策について

1 スポーツイベントの誘致等を通じた市町村・関係団体・民間事業者等と連携した誘客対策について

(1) 市町村等との連携

スポーツ等のイベントや合宿の誘致を推進するためには、県による支援が欠かせない。市町村等の課題や要望を適時・的確に把握し、実施環境を整備することが重要であるので、その仕組みを検討する必要がある。

また、安心して練習するためには、医療体制の充実も重要であることから、受傷事故が集中する繁忙期等において医師の配置や救急搬送体制を充実させるなど、さらなる医療体制の充実に向けて支援していく必要がある。

(2) 九重町の取組に対する支援の拡充

県が現在整備している県道別府一の宮線（やまなみハイウェイ）の路肩拡幅については早急に整備するとともに、関係者の声を踏まえ、反対側の拡幅を実施する必要がある。また、マラソンコースについては、農繁期や複数のチームの合宿時などに備え、代替となるコースの整備等を県として支援する必要がある。

2 留学生を活用したインバウンド対策について

(1) 留学生ボランティアを増やす仕組みの検討

今後開催される大規模文化・スポーツイベントにおいて外国人に対するおもてなしを充実させるため、開催時に留学生に通訳を依頼するなど、留学生ボランティアを増やす仕組みを検討する必要がある。

(2) 訪日外国人旅行者に安心感を与える取組の検討

訪日外国人旅行者の事情に通じた留学生と協働して、イベント時の開催地や観光地へのアクセス方法、文化や習慣の違いなどを外国語で発信して安心感を与える取組を検討する必要がある。

II 大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信について

1 市町村・民間事業者等と一体となった効果的な情報発信

(1) ターゲットとする国の趣向を踏まえたPR・情報発信

生活習慣や嗜好などは国や地域によって違いがあることから、インバウンド対策を行うに当たっては、ターゲットとなる国や地域の趣向を踏まえて効果的に行う必要がある。

(2) 各事業者への必要な支援制度の周知

支援の対象となる事業者に、必要な支援等の情報が届くように、会員制交流サイト（SNS）等を利用するなど伝達方法を工夫する必要がある。

Ⅲ 文化・スポーツを活用した地域の振興について

1 カルチャー・スポーツツーリズム（スポーツ合宿等）を通じた地域の活性化について

(1) 県が主体となり、関係団体等と一体となった推進体制の検討

カルチャー・スポーツツーリズム（スポーツ合宿等）等を通じた地域の活性化を推進するためには、地域における客観的な有利性、課題を把握し、行政、民間が連携し一体となって課題解決や地域振興を図ることが重要であることから、県が主体的に関与するとともに、市町村や関係団体等とこうした情報の共有や連携を図れる推進体制の在り方を検討する必要がある。

(2) ヘルスツーリズムなど新たな地域活性化策の検討

これまでのスポーツ団体を対象としたスポーツ合宿だけでなく、既存のスポーツ施設や蓄積されたノウハウ、温泉などの地域資源を生かし、市民ランナーや健康増進を目的とした一般旅行者をターゲットとした観光とスポーツが一体となった新たな取組（ヘルスツーリズムなど）による地域活性化を検討する必要がある。

2 持続可能な地域展開を見据えた文化推進体制整備や人材育成の在り方について

地域において文化やスポーツの取組を継続していくためには、地域住民に興味関心を持ってもらうとともに核となる人材の育成が不可欠である。アルゲリッチ芸術振興財団や九重町、国東市の取組は、子供から大人までに、そうした機会を提供するとともに人材育成の場になっていることから、引き続きこうした住民や団体等の主体性を尊重した環境づくりや支援を行っていくことが重要である。

【終わりに】

第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭では、県内外から数多くの人々が訪れ、県内全域に活力を与えるとともに、今後の本県における芸術文化の振興を更に深化させる契機となる取組が数多く実施された。

また、今後開催されるラグビーワールドカップ2019では、本県において、プール戦1次リーグ3試合、準々決勝2試合の計5試合が開催され、期間中、多くの外国人観戦客が訪れることが見込まれており、県内への経済波及効果は、253億円に上るとの試算結果が発表されている。

このように、大きな事業効果を生み出す大型文化・スポーツイベントが、数年内に立て続けに実施されるという好機を捉え、その事業効果を一過性のものとせず、地域レベルで文化スポーツの芽を育み、将来に渡って継続させていくことが、本県における喫緊の課題となっている。

また、実施された大型文化・スポーツイベントで培われた手法やそこで育成された人材により、今後も継続的に大型文化・スポーツイベントを本県に誘致していくことも重要である。

本委員会では、このような状況を踏まえ、文化・スポーツイベントの誘致等を通じた市町村・関係団体・民間事業者等と連携した誘客対策、大規模文化・スポーツイベントを活用した情報発信、文化・スポーツを活用した地域の振興の3点について調査を行い、今回の提言を行うものである。

関係部局においては、今後も地域の声に耳を傾け、文化・スポーツイベントを通じた、より一層、効果的な地域活性化策を実施していただくことを期待して本委員会の報告とする。

なお、本年11月16日に開催されたサッカー日本代表の国際親善試合では、会場である大分銀行ドームで渋滞が発生し、相当数の観客が試合開始に間に合わないという事態が生じた。今後大規模スポーツイベント等を同会場で実施することに対する県内外の団体や観戦客等の信頼を損ねたことは大変遺憾である。ラグビーワールドカップ2019をはじめ、多くの大規模スポーツイベント等の開催が見込まれる中、二度このようなことを起こさないよう同ドームにおける交通対策については関係者間で連携を強化し、万全を期すように付言する。

平成30年12月12日

文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会

委員長 嶋 幸一

副委員長 古手川 正治

委員 衛藤 博昭

委員 大友 栄二

委員 三浦 正臣

委員 濱田 洋

委員 馬場 林

委員 玉田 輝義

委員 久原 和弘

委員 荒金 信生

【委員会の活動状況】

1 委員会の開催状況

(平成29年度～30年度)

開催年月日		調査年月日
第1回	平成29年 9月15日	・正副委員長の互選
第2回	平成29年 9月27日	・付託事件の調査項目、調査計画を決定
第3回	平成29年12月13日	・付託事件の調査 (企画振興部、国民文化祭・障害者芸術文化祭局) (1) 文化・スポーツを活用した地域振興への取組について (2) 国民文化祭における誘客・情報発信等の取組状況について
第4回	平成30年 3月28日	・付託事件の調査 (公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団、国東市) (1) 公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団の取組について (2) くにさきアートフェスタの取組について
第5回	平成30年 6月12日	・正副委員長の互選
第6回	平成30年 6月27日	・付託事件の調査項目、調査計画を修正
第7回	平成30年 9月14日	・報告書(骨子案)の協議
第8回	平成30年11月26日	・報告書の審議
第9回	平成30年12月 4日	・報告書の審議

2 県内所管事務調査

調査年月日	調査先	調査項目
平成30年8月7日	・九重町 ・由布市	(1) 九重町役場・九重町観光協会 ・九重町におけるスポーツ合宿の取組及び関係機関との連携について (2) インバウンド推進協議会OITA ・インバウンド推進協議会における取組について

3 県外所管事務調査

調査年月日	調査先	調査項目
平成30年1月16日～17日	長野県	<p>(1) 上田市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅平スポーツツーリズムの状況について ・東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019等、大型イベントにおけるホストタウン事業や合宿地誘致の状況について <p>(2) 長野県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県スポーツコミッションについて ・オリンピック等大型スポーツイベントにかかるキャンプ地誘致の取組について ・文化イベント（セイジ・オザワ松本フェスティバル）への県の支援状況について